



Data	2022-19
監督:	スティーブン・スピルバーグ
脚本:	トニー・クシュナー
音楽:	レナード・バーンスタイン
原作:	アーサー・ローレンツ『ウエスト・サイド物語』
出演:	アンセル・エルゴート/レイ チェル・ゼグラール/アリア ナ・デボーズ/デヴィッド・ アルヴァレス/ジョシュ・ア ンドレス/コリー・ストール /リタ・モレノ/ブライア ン・ダーシー・ジェームズ

👁️👁️ みどころ

私が中学生の時に銀幕で遭遇した3人のマリアは、『誰が為に鐘は鳴る』(52年)『サウンド・オブ・ミュージック』(65年)、そして、『ウエスト・サイド物語』(61年)。イングリット・バーグマンの美しさにも息を飲んだが、『ウエスト・サイド物語』にみるナタリー・ウッドの若さと美しさには大感激。

レナード・バーンスタインは、「新世界」をはじめとするクラシック音楽の指揮者として有名だが、“TONIGHT”や“Some where”等、本作の数々の音楽とダンスも衝撃だった。あれから60年、音楽もダンスも全く古さを感じさせないが、今の若者は本作と旧作を如何に受け止めるの？

緊迫するウクライナ情勢は、「プーチンが侵攻決断！」と伝えられているが、憎悪と悪意は善意と愛で救えるの？本作のラストはフェイクニュースのために大悲劇になってしまったが、さてウクライナは・・・？

■□■中学時代に3つの名作で3人のマリアと遭遇！■□■

私が「生涯のベスト1」にしている映画は、高校の時に観た『サウンド・オブ・ミュージック』(65年)。これは学校公認の推薦映画だったが、逆に不良たち(?)の間で話題になっていたのがそれより少し前の『ウエスト・サイド物語』(61年)だった。両者ともブロードウェイ・ミュージカルをロバート・ワイズ監督が映画化したものだが、面白いのは両者とも主人公の名前が“マリア”であること。

私は『ウエスト・サイド物語』を公開時に“封切館”で観ておらず、ずっと後になってから“二番館”で鑑賞した。その理由は、①学校公認の映画ではなかったこと、②勉強、勉強の圧力を日々受けていたこと、③封切館の料金は高すぎて、それを支払う小遣いがなかったこと、の3つだ。

他方、中学2年生頃から私は3本立てで55円と言う、「二番館」に1人で通うようになっていたが、そこで観た名作の1つが『誰が為に鐘は鳴る』（52年）。これは、世界文学全集の1つとして有名なアーネスト・ヘミングウェイの小説をゲイリー・クーパーとイングリット・バーグマンの共演で映画化したものだがそこで「キスする時、鼻はどうするの？」と言う名ゼリフを吐いたのは、イングリット・バーグマン扮する“マリア”だった。また、『サウンド・オブ・ミュージック』で「ドレミの歌」をはじめとする名曲を見事に歌い上げたのは、ジュリー・アンドリュースだが、彼女の劇中の名前も“マリア”だった。したがって私は、中学時代に3つの名作で3人のマリアと遭遇していたわけだ。

思春期真っ只中の私が銀幕で観た3人の“マリア”はそれぞれ魅力的だったが、とびつき若く、美しかったのが、ナタリー・ウッドが演じた『ウエスト・サイド物語』の“マリア”だ。『理由なき反抗』（55年）ではジェームズ・ディーンの陰に隠れていたが、『ウエスト・サイド物語』では、彼女の魅力が全開。それを本作では新人のレイチェル・ゼグラーが演じているので、2代目マリアに注目！

■□■LPレコードで何度も聞いたすべての曲がそのまま！■□■

高校時代の私はクラシック音楽も大好きだったが、LPレコードは高かったから、なかなか買えなかった。クラシックのLPレコードを買ったのは大学生の時だが、それでも買ったのは、せいぜい数十枚。その中には当然、指揮者、レナード・バーンスタインの「新世界」もあった。『ウエスト・サイド物語』の音楽担当はそのレナード・バーンスタインだ。

1957年にブロードウェイ・ミュージカルとして上演された同作は、音楽だけでなくダンスも見ものだったが、それは当時中学2年生の私にはあくまで噂として聞いていただけ。しかし、映画冒頭、ニューヨーク下町のウエストサイド地区を“闊歩”するブルトリコ系の“ジェット団”を率いるベルナンドに扮したジョージ・チャキリス達のダンスは？あの足の上げ方とあのスピードは、「劇団四季」の誕生と成長によって、今の日本でも当たり前になっているが、中学生の時にそれをはじめて観たときの衝撃はすごかった。また、そんなダンスのバックとして流れたレナード・バーンスタイン作曲の名曲の数々の素晴らしさは・・・？

■□■“TONIGHT”の美しさにシェイクスピアもビックリ！■□■

後に日本の歌手・布施明と結婚したイギリスの美人女優オリヴィア・ハッセーが主演した『ロミオとジュリエット』（68年）が公開されたのは、私が学生運動に明け暮れていた頃。私は旧作を京都の祇園会館で鑑賞したが、シェイクスピア劇があれほど斬新に映像化されたことにビックリしたものだ。同作におけるバルコニーのシーンも良かったが、『ウエスト・サイド物語』における非常階段のシーンでは、何と言っても2が歌う“TONIGHT”が圧巻だった。

ベルナンドの妹であるマリアと元ジェット団のリーダーだったトニーがダンスパーティーで互いに一目ぼれしたところから、数奇な運命に導かれるかの如きストーリーが展開し、

ラストには何とも言えない悲劇を迎えるわけだが、“TONIGHT”を歌う時の二人の幸せ感はまさに絶頂。明日の再会を約束して別れた2人には、幸せが待っていると思われたが・・・。

「バルコニー」が「非常階段」に変更された上に、こんな美しいミュージカルナンバーとしてスクリーン上に演出されるとは、原作を書いたシェイクスピアもビックリ！？

■□■対立も憎悪も善意と愛で！トニーの想いは？■□■

私はチャールトン・ヘストン主演の『ベン・ハー』（59年）を映画やPVで何度も観ている。同作は中盤にみる“戦車レース”がハイライトだが、実はそれ以上に、イエス・キリストの物語。自分を奴隷としてガレー船に送り込み、愛する母と妹を長く獄中に置き、“死病”に至らせたのは、かつての親友だったローマ帝国軍人のメッサラ。ユダヤ人の名家出身だったベン・ハーはそんなメッサラへの復讐心だけで生きてきたが、そこには見えない神の手が……。そして、“戦車レース”でメッサラを打ちのめしたにもかかわらず、母と妹の現状を見て絶望的になったベン・ハーが、立ち直れたのは一体なぜ。

中学時代に『キング・オブ・キングス』（61年）等で観た、イエス・キリストの奇跡を私は信じているが『ウエスト・サイド物語』に観る、ジェット団 VS シャーク団の対決は人種問題だから、その解決は困難。刑務所暮らしをしたことで今は更生を誓っているトニーは、マリアと恋に陥ったことで、ジェット団 VS シャーク団の対立と憎悪も善意と愛で解決しようとしたが・・・。

■□■ウクライナ情勢は誤解からのブチこわしが心配■□■

2022年2月18日、緊迫するウクライナ情勢について、米国のバイデン大統領はホワイトハウスで「現時点でプーチンは侵攻を決断した」と演説したが、シェイクスピアが書いた『ロミオとジュリエット』では、モンタギュー家とキャピュレット家という貴族同士の対立が恋に落ちた若い2人の悲劇を生んだが、そこにはさまざまな偽り情報や誤解があった。しかし、『ウエスト・サイド物語』は、グレート若者同士の対立にすぎないから、警察が漸固とした処置をとれば、それで解決！そう思ったが、いやいや、現実はそうでもないらしい。

本作ラストに向かつては、ジェット団とシャーク団の最後の対決の中で、トニーがマリアの兄のベルナンドを殺してしまうという悲劇が起きるが、「愛に殉ずる」と誓ったマリアは、ベルナンドの恋人であるアニタの“想い”を受け止め、トニーとの逃避行を決定！これが実現すれば、これ以上の悲劇は抑えられるはずだ。ところが、マリアからの伝言を預かってトニーに会いに行ったアニタに対して、ジェット団の連中がとった対応は？集団レイプこそ免れたものの、そこでアニタは悔し紛れに「マリアは撃たれて死んだ」と虚偽の情報を伝えたから、さあ大変だ。

トランプ大統領の登場以来さまざまなフェイクニュースが流れているが、ウクライナ情勢を巡っては、ロシアを中心に（?）、「敵の攻撃によって、多くの被害を受けている」等のフェイクニュースが意図的に流されているらしい。ウクライナを巡っては、誤った情報

に沿った局地戦や全面戦争に至らないことを願うばかりだが、さて、本作のラストは・・・？

語学の学習は映画や音楽から。それを地でいくなら、“TONIGHT” はもちろん、本作のラストで歌われる “Some where” もしっかりと歌い込み、英語の歌詞をしっかりと覚えたい。

2022（令和4）年2月22日記